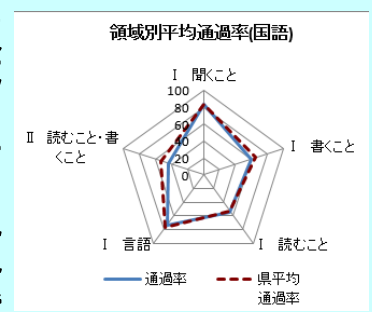
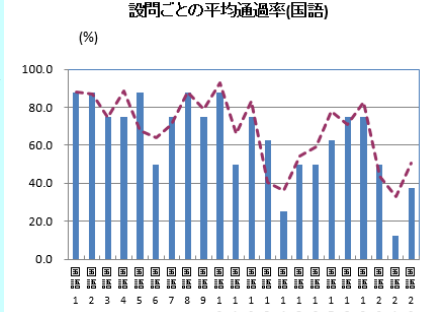


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校64.2%, 県68.0%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度通過率

A問題	本校	88.0 %
	広島県	77.0 %
	全国	74.8 %
B問題	本校	76.0 %
	広島県	61.0 %
	全国	57.5 %

本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査 ◇全国学力学習状況調査

○取組の成果と課題
 ・全国学力学習状況調査については、国語A全体通過率88.0%、算数B全体通過率85.0%と全国平均と比べても比較的良好な結果であった。
 ○今年度の調査から新たに明らかになった課題
 ◎「叙述をもとにした想像(25.0%)」「情報の取り出し・情報を関係付けた記述(12.5%)」など、物語文を中心に文章を正確に読み取れていない。文章表現から、登場人物の行動や心情を読み取ることができていない。(文章から登場人物の気持ちを想像することが難しい)
 ◎必要な情報を基に3つの段落に分けて説明する文章書こうとしているが、必要な情報を選択することができていなかったり、書ききれなかったりする。(短時間でまとめた文章を書く力が弱い)
 ◇「俳句の情景をとらえる(40.0%)」「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く(0.0%)」など、季語が明示された二つの俳句についての話し合いから、俳句のよさについて紹介する内容を読み取って正しい解答を選択することができていない。その理由としては、①「季語」という身近なキーワードに惑わされてしまったこと、②言葉のひびきや言葉からイメージされる情景や心情を読み取ることができていない課題がある。また、手紙の中から二つのアドバイスをみつけて、適切に書き直すことができていない課題がある。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査 ◇全国学力学習状況調査

- ◎叙述をもとにした想像(自分の考えの記述) 25.0% (県通過率差-10.9%)
- ◎情報の取り出し・情報を関係付けた記述 12.5% (県通過率差-20.3%)
- ◇グループの話し合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する。(俳句の情景をとらえる) 40.0% (全国通過率差-17.0%)
- ◇「水やりに協力してくれる人を募集します」の[イ]に入る内容を、中学生からのアドバイスを基に書く。(目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く) 40.0% (全国通過率差+7.0%)

標準学力調査に向けた重点取組

- ・次の視点に重点を置いて授業改善を行う。
 - ①物語文の学習では、登場人物の関係図(マップ図)をもとに、人物同士のつながりや物語全体の構成を自力で考えていく学習を仕組む。
 - ②説明文の学習では、段落相互の関係を接続詞やキーワードをもとにとらえさせる。段落構成図を書かせることを通して要旨をとらえられるようにしていく。また、「まず」「それから(次に)」…といった順番を表す言葉についてもいろいろなパターンを指導して順序を読み取ることを意識づけていく。
 - ③文章(図・表・グラフなども含む)の中から必要な情報を取り出し、考え整理し、論理的に短時間で説明する(作文する)活動を仕組む。
 - ④俳句の「季語」についての理解を深めることと、キーワードをもとに、低学年の頃から、言葉のひびきを感じさせたり、言葉からイメージを広げていったりする活動を授業の中に位置づけていく。
- ・児童にとって未読の読解問題に数多く当たらせ、問題に慣れさせる。
- ・説明文の読み取りで低学年のうちから、段落構成の意味について理解を深める指導を行う。(書く指導につなげる)
- ・選定した必読書を読ませる期間をつくり、まとまった量をすらすら読む力を各学年でつけさせる。
- ・通過率30%未満の児童に対しては、つまづきを把握し、簡単な問題から克服させていくことで学習意欲を持たせ、個別指導を継続していく。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> ・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・改善計画を行い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の問題を職員で解答し、問題の把握を図る。 ・全職員に改善計画の周知を図る。(学向委) ・「標準学力調査」に向けた誤答分析と取り組みの共有をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。 ・必読書の読書状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト、学期末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) ・H29「基礎基本」 ・H29「全国学力」の検証をする。(伸びを見る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・H29「標準学力調査」 ・誤答分析とつまづきに対してのフォローアッププリントで克服する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト、学年末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定テストの結果の交流。 ・各学年の誤答分析と対策を実施する。(春休み)
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> ・5・6年 課題のあった設問の復習をする。(ぐんぐんタイム) ・全学年 物語文・説明文などの授業改善の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト『必読書週間』 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・学期末テスト ・5年生 H29「基礎・基本」テスト実施、分析。 ・6年生 H29「全国学力」テストの実施、解説。 	<p>【検証】標準学力調査 目標値 1～3年通過率80% 4～6年通過率80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・4年生 H29「基礎・基本」テスト実施、分析、課題克服。(通過率75%) ・5年生 H29「全国学力」テストの実施、分析、課題克服。(通過率75%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定テスト ・つまづきに対してフォローアッププリントで克服する。

物語文・説明文中の言葉を根拠に自分の考えを書かせる指導の実施/日常的に読書量を増やし、語彙を増やす指導の実施

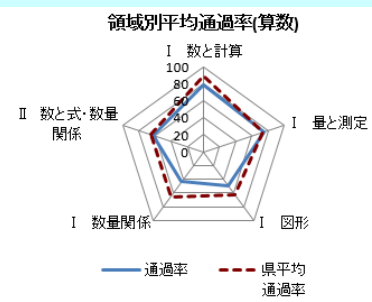
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校66.7%, 県74.3%)

全国学力・学習状況調査 本年度通過率

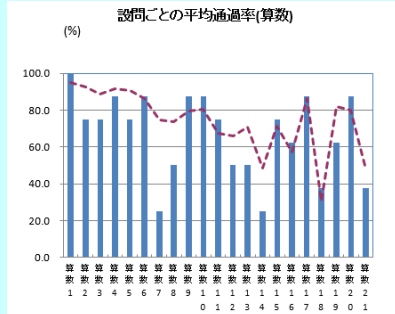
本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査 ◇全国学力学習状況調査

領域別平均通過率



設問別の平均通過率



A問題

本校	85.0 %
広島県	81.0 %
全国	78.6 %

B問題

本校	44.0 %
広島県	47.0 %
全国	45.9 %

◎取組の成果と課題

- ・全国学力学習状況調査については、算数A全体通過率85.0%、算数B全体通過率44.0%の結果であった。B問題が解けるようにする。
- ・「基礎基本」定着状況調査については、四則計算を中心に、全体的な底上げが必要である。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

◎「四則混合の計算 (25.0%)」「平行四辺形の判断 (25.0%)」など、基礎的な内容を確実に答えられていない。その理由としては、四則混合の計算問題の定着ができていない。また、図形の問題について、問題をしっかりと読まず、平行四辺形の特徴を選んだだけで答えている。コンパスで測り取った長さが何の長さか理解できていない。などの理由が挙げられる。

◇「未知の数量を表す口を用いて、問題場面を除法の式に表す (40.0%)」「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ (0.0%)」など、一見簡単に答えられそうな問題こつまずいている傾向がある。その理由としては、問題を十分読み取っていないために、口を用いて除法の式に表すことができていない。わる数とわられる数と商の関係を理解していない。また、割合を表すグラフとして適切なものを選んでいない。などの理由が挙げられる。

重点課題

◎基礎基本定着状況調査 ◇全国学力学習状況調査

- ◎四則混合の計算 25.0% (県通過率差-49.7%)
- ◎平行四辺形の判断 25.0% (県通過率差-23.3%)
◇はじめに持っていたシールの枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。 40.0% (全国通過率差-43.6%)
(未知の数量を表す口を用いて、問題場面を除法の式に表す)
◇学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ。(割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ) 0.0% (全国通過率差-29.3%)

標準学力調査に向けた重点取組

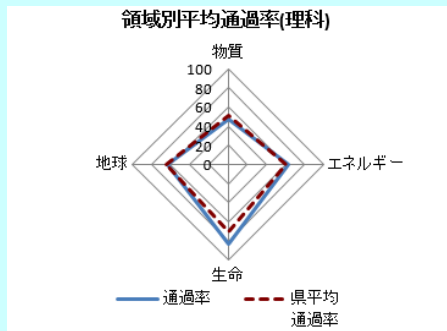
- ・次の視点に重点を置いて授業改善を行う。
 - ① 「課題設定」・・・「わかっていること」、「たずねられていること」、「前の時間との違い」をおさえる。
 - ・既習事項の何が使えるかを明確にする。
 - ・絵や図、言葉や式を使って考えを表現する。
 - ② 「集団解決」・・・○話し合いの視点を持たせて練り合う。
 - ・「考えを理解する」
 - ・「似たところ・違うところ・比べるところ・どれが簡単か・よいと思うやり方」
 - ・「数字が変わっても使えそうなもの」
 ○復唱法で思考を深める。(同じことを何度も・他者説明)
- ・25分の「ぐんぐんタイム」を確実に保証し、短時間で集中して問題に取り組み、基礎的・基本的な計算力を定着させる。
- ・過去問の通過率の低かった問題を何回も解かせ、弱点を克服する。(校内職員も協力する)
- ・論理的な思考力を深めるために、ヘアや集団で自分の考えを図や表、算数用語を使って説明する活動を十分にさせる。
- ・通過率30%未満の児童に対しては、継続して「ぐんぐんタイム」で前学年の内容にもどって復習させ、確実に力をつけさせる。

取組計画表

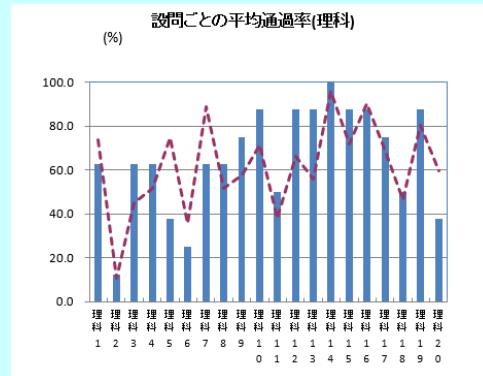
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	<ul style="list-style-type: none"> ・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 ・改善計画を行い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の問題を職員で解答し、問題の把握を図る。 ・全職員に改善計画の周知を図る。(学向委) ・「標準学力調査」に向けた誤答分析と取り組みの共有をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト、学期末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) ・H29「基礎基本」 ・H29「全国学力」の検証をする。(伸びを見る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・H29「標準学力調査」 ・誤答分析とつまづきに対してのフォローアッププリントで克服する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト、学年末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定テストの結果の交流。 ・各学年の誤答分析と対策を実施する。
児童への取組	主体的に学ぶ児童の育成を目指した授業(課題設定・集団解決に重点)の実施/ぐんぐんタイムにおける基本的な計算力の徹底							
		<ul style="list-style-type: none"> ・5・6年 課題のあった設問の復習をする。(ぐんぐんタイム) ・全学年 授業改善の実践 授業で沼田小スタンダード・発著名人の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・学期末テスト ・5年生 H29「基礎・基本」テスト実施、分析。 ・6年生 H29「全国学力」テストの実施、解説。 	<p>【検証】標準学力調査</p> <p>目標値 1～3年通過率80% 4～6年通過率80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・4年生 H29「基礎・基本」テスト実施、分析、課題克服。(通過率75%) ・5年生 H29「全国学力」テストの実施、分析、課題克服。(通過率75%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当学年の検定テスト実施。 ・つまづきに対してフォローアッププリントで克服する。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校65.0%, 県61.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 取組の成果と課題
 - ・少人数学習のメリットを活かし、できる限り一人ずつ実験や観察ができる環境づくり、学習指導の工夫を図っている。
- 今年度の調査から新たに明らかになった課題
 - ・問題の中の情報や出題の意図を読み切れていない。(読解の問題)
 - ・既習事項が理解できていない。
 - ・表やグラフで読み取ったことと説明とを関連させて解けていない。

重点課題

- 適切な検証方法の選択 12.5% (県通過率差+2.1%)
 - 問題の中の2人の考え方を把握できていないので、何を検証する実験なのか理解できていない。
- 日光を重ねたときのあたたかさ 25.0% (県通過率差-10.6%)
 - ②の温度(イで33℃)は、7/8の児童が正しい温度を選んでいたが、その理由を、温度・反射・日光・重なる・2枚分・3枚分などの適切な用語を使って論理的に記述できていない。

標準学力調査に向けた重点取組

- 次の視点に重点を置いて授業改善を行う。
 - 既習事項を確実に理解させていく。
 - ・一人一実験 一観察をさせ、予想→実験(観察)→考察→まとめまでの一連の学習を意識し、ノートやワークシートにまとめさせる。
 - 問題の情報を適切に読み取り、関連・整理しながら論理的に書く力を日頃からつけさせる。(国語科と関連して)
 - ・理科の問題も日常的に解かせ、慣れさせておく。
 - 日常生活の理的事象を授業で取り上げるなどし、理的事象に関心や親しみをもつことができる児童を育成する。
 - ・図書の本やICT機器(動画など)の活用

取組計画表

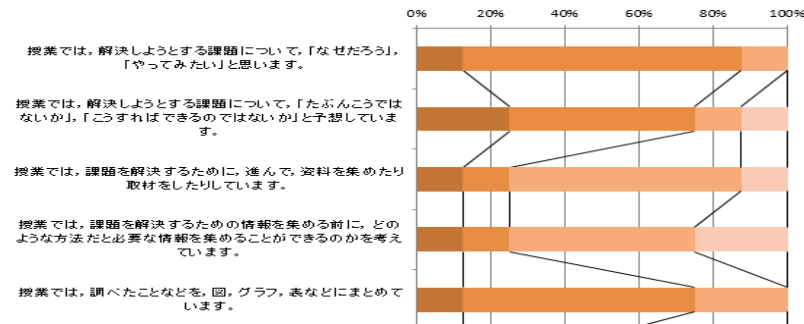
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	<ul style="list-style-type: none"> 通過率の低かった問題の誤答分析を行う。 改善計画を行い、2学期から全職員で取り組む内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「標準学力調査」に向けた誤答分析と取り組みの共有をする。 実際の問題を職員で解答し、問題の把握を図る。 全職員に改善計画の周知を図る。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストにて改善計画の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストにて改善計画の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト・学期末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> H29「標準学力調査」 誤答分析と取り組みの共有をする。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト、学年末テストにて授業改善の進捗状況を確認する。(学向委) 	<ul style="list-style-type: none"> 検定テストの結果の交流。 各学年の誤答分析と対策を実施する。
児童への取組		<ul style="list-style-type: none"> 5・6年 課題のあった設問の復習をする。 全学年 授業改善の実践 授業で沼田小スタンダード・発表名人の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 学期末テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 3～6年 標準学力調査の実施(通過率 80%) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 4年生 H29「基礎・基本」テスト実施、分析、課題克服。(通過率75%) 5年生「全国学力」テスト過去問の実施、分析、課題克服。(通過率75%) 	<ul style="list-style-type: none"> 該当学年の検定テスト実施。 つまづきに対してフォローアッププリントで克服する。

一人一実験・一観察で確実な指導の実施/課題発見・解決学習による科学的な思考を育てる指導の実施

別紙3 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

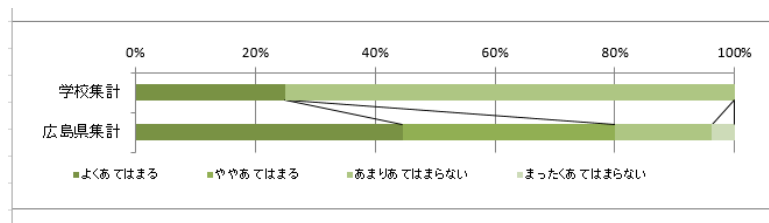
「課題発見・解決学習」(1)



児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
<ul style="list-style-type: none"> 「授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要で集めることができるのかを考えています。」(25.0%) となっている。主体的な情報の収集・選択の仕方が身につけていないことが意識として表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集・選択の方法について指導するとともに、いろいろな教科で、課題発見・解決学習を仕組み、児童自らが課題解決するための方法を考えさせていく授業改善を行っていく。 	5	70.0	再度アンケートを行う。	年度末		

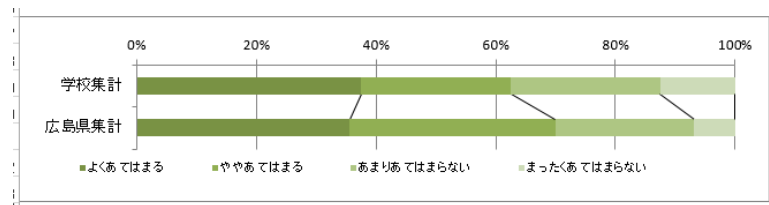
(2) 教科

国語の授業では、場面のようなすや移り変わり、人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら、物語などの文章を読んでいます。



児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
<ul style="list-style-type: none"> 「国語の授業では、場面のようなすや移り変わり、人物の気持ちを表現している言葉や文に注意しながら、物語などの文章を読んでいます。」(25.0%) となっている。主体的に文章を読み進める意識が育っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 文学的文章では人物の相関関係、説明的文章では段落構成についてマップ図に表すなどしながら、文章全体を俯瞰して読み進める学習や叙述をもとにして考える学習に取り組んでいく。主体的に読み進めるための力である語彙力をつけるため、読書量を増やす取組や辞書引きも日常的に行っていく。 	5	80.0	再度アンケートを行う。	年度末		
<ul style="list-style-type: none"> 「算数の授業では、式が何を表しているのかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしています。」(62.5%) となっている。式の意味についての理解ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面からただ立式して解くという形式的な学びではなく、友達に自分の考えを書いて伝えたり話し合ったりする中で新たな学びにつながっていくなどの、主体的に学び合う学習を目指していく。 	5	80.0	再度アンケートを行う。	年度末		
<ul style="list-style-type: none"> 「理科の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。」(50.0%) となっている。学習課題に対する振り返りの時間を設定することがあまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ〇〇になるのだろう」という疑問から課題設定→予想→実験・観察→考察→まとめ→振り返りまでの一連の学習を積み重ねていく。 	5	80.0	再度アンケートを行う。	年度末		

算数の授業では、式が何を表しているのかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしています。



理科の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。

